

令和3年度 経営協議会学外委員等からの意見と対応状況

○経営協議会学外委員からの意見と対応状況

番号	経営協議会	学外委員等からの意見	本学の対応状況
1	第95回 R3.6.17開催	社会人教育に今後も是非力を入れていただければと思う。社会人は時間的な制約が強く、なかなかキャンパスに通うことが難しいので、オンラインを活用したカリキュラムを組んでいただくと参加しやすくなるのではないと思う。特に令和4年4月に開設される価値創造・実践プログラムは、付加価値の向上に繋がる非常に面白いプログラムだと思うので社会人学生が参加しやすい形を工夫してもらいたい。	これからの大学における教育、研究へのオンラインの活用は非常に重要な問題である。本学では、新たに立ち上げた遠隔教育研究イノベーションセンターを中心に、取り組みを進めていきたいと考えている。
2	第96回 R3.9.16開催	日本の研究力が低下していることを考えたときに、やはり博士後期課程の学生をどのように増やして土台を固めていくかということが重要になる。	本学は、令和3年度国立研究開発法人科学技術振興機構の公募事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け、挑戦的・融合的な研究を通じて我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生の育成と当該学生に対する経済的支援を行うとともに、希望する博士後期課程学生(社会人コース学生等を除く。)を全員採用し、業務の従事時間に応じ、年間最大で60万円程度を支給する新たな雇用型奨学金制度「ユニバーシティ・アシスタント」を令和4年度から導入するなど、学生獲得に向けた取り組みを行っている。また、平成30年度より、産業界と連携した博士人材育成制度(博士後期課程修了後に当該企業に就職することを条件に、企業が授業料・生活費に相当する奨学金を3年間貸与し、学生が当該企業で一定期間勤務すれば返済免除となる)を実施している。
3	第97回 R3.11.18開催	JAISTでは、これまで博士後期課程に対する企業からの支援の獲得に取り組まれているが、今後は博士前期課程にも企業からの優秀な学生を取り込んでいくために、鉄鋼業や重化学コンビナート関係に企業等に、積極的にJAISTの良さを売りこんでいくというアプローチが有効になるのではないかと。	マテリアルサイエンス系において、社会人を対象とした学生募集パンフレットを作成し、共同研究を行っている企業等に配付している。博士後期課程プログラムを紹介する内容ではあるが、研究設備の充実、世界レベルの研究を行っていることを紹介しており、博士前期課程入学希望者にも興味を持ってもらえる内容となっている。
4	第97回 R3.11.18開催	JAISTが既に教えている学問の中で、日本の高等教育に欠けているものに目を向けると、1つのヒントになるのではないと思う。例えば、知識論やシステム論は、日本の高等教育の中では教えていないが、多くの職場で非常に役立つ学問である。同じく政策論も高等教育の中では教えていないが、特に行政関係者の強いニーズがあるものと考えられる。このような部分をビジネスチャンスと捉え、実務的なカリキュラムを作り、高度な知識まで引き上げていくと、JAISTらしいリカレント教育ができるのではないかと。	ご教示いただいたように、社会のニーズがあり、本学の既存の体制でカバーできる分野に目を向けるとするのは大変参考になるご意見であり、今後そのような視点で見直しを進めたい。

○アカデミックアドバイザーからの意見と対応状況

番号	アカデミックアドバイザーとの懇談会	アドバイザーからの意見	本学の対応状況
1		JAISTは、他分野を横断する科学技術を社会・産業界と一体になって推進するという、総合大学では果たせない使命を担っており、それはJAISTが思っているよりもはるかに大きなインパクトを日本や世界に与えるのではないかと期待している。新しい研究領域の再編においては、その中身を充実させるという極めて重要な議論が進んでいるので、この学術的な議論の内容をぜひ情報発信してほしい。	新たに再編した10の研究領域について、概要や教育研究の方針、所属教員などを記載した冊子(研究室ガイド)を作成するとともに、HPIにも掲載することで広く情報発信を行った。 また、領域再編の検討にあたっては、教員の意見を十分反映させるため、中堅教員を中心に構成された「領域再編タスクフォース」が主体となって新研究領域の名称や概要をとりまとめており、このことについては「令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書」で公表している。
2		科学研究費以外の公的研究費の支援は考えていないのか。	外部研究資金等の獲得増を目指して、本学の求めに応じ学外有識者が助言を行う「研究アドバイザー制度」の創設や、各種外部資金の獲得に向けた企画立案を行う「外部資金獲得支援タスクフォース」の設置を行った。
3	R3.1.26開催	博士後期課程の学生に対し、研究費の支援だけでなく生活費の支援はあるのか。	本学における学術研究の一層の推進に資する研究支援体制の充実・強化及び若手研究者の養成・確保を促進するため、博士後期課程学生を対象として研究補助業務を行わせる、労働対価型の奨学金制度(UA:ユニバーシティ・アシスタント)を創設した。 また、科学技術振興機構公募事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択され、「未来創造イノベーション研究者支援プログラム」として、優秀な志ある博士後期課程学生に対して研究費及び研究奨励金(生活費相当額)を支給している。
4		以前のJAISTは情報科学技術を基盤にした先端科学技術において日本のトップ研究拠点という感じがしたが、最近はそのあたり前になり、JAISTの目玉が見えない。そのことについてどのように考えているか。	カーボンニュートラルの達成等の社会課題に対応するため、本学において五感情報通信技術に代表される生体機能・感覚研究分野、カーボンニュートラル等の環境分野、自然現象・自然災害に関する分野等を重点分野として位置付け、「未来創造イノベーション推進本部」を改組により設置することで、これらの研究について戦略的に支援を行い、産業界のニーズの把握、研究推進、研究成果の創出、社会実装等を促進し、社会的インパクトにつながるイノベーションの創出に寄与していく予定である。

○産業界の有識者からの意見と対応状況

番号	産業界の有識者と学長との懇談会	アドバイザーからの意見	本学の対応状況
1	R3.1.15開催	Matching HUBでのM-BIPにおいて、学生との質疑応答の時間が少なく感じた。M-BIPより前に、企業が応募者の中から上位の人を先を選んで指導する機会があれば、学生のアイデアに対して企業としてのアドバイスができるのではないかと。	M-BIPの開催前に、入選提案をブラッシュアップするための実践演習を、それぞれの提案に対して1、2回実施し、民間企業、金融機関、起業家からなる企業URAから学生に対してアドバイスする機会を設けた。